

平成 30 年度

事業所名 : グループホームシリウス姫神

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100154		
法人名	株式会社シリウスケアサービス		
事業所名	グループホームシリウス姫神		
所在地	盛岡市浜民字駅105		
自己評価作成日	平成30年8月9日	評価結果市町村受理日	平成30年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0390100154-00&PrefCd=03&Ver=si_onQt=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であっても利用者個々の思いを大切に、穏やかで安心な暮らしができるよう支援しています。御家族や地域との交流を大切にしています。定期受診や生活を整えることで体調の改善ができ認知症状が落ち着く方も多です。面会者も多く馴染みの方との関係も続いています。重度化し住み替えが必要になった場合にも関係機関と協力をし、転所先の支援ができています。運営推進会議で助言や情報の提供をいただき困難事例にも対応できています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣に、市役所支所や消防署、医院、児童館、小学校、文化施設、スーパー等のある利便性のよい場所に立地し、開設から10年の節目を迎えている。姫神山の景色を眺め石川啄木の詩に触れあえる環境の中で、「心穏やかな生活を共に営むことの出来る支援」を目的とする職員に見守られながら、利用者は暮らしている。昨年からお願いしている傾聴ボランティア訪問での個別又はグループ傾聴は、不眠や不穏、帰宅願望、徘徊傾向のあった利用者の心の安寧に繋がられている。運営推進会議では夜間職員一人体制下での災害対策や地域住民との交流、重度化・終末期利用者の住替えなどの現状を伝え、委員に加えボランティア、地域住民の応援を得ながら利用者の安全と地域の生活文化を取り入れたホームとして、利用者の笑顔を活力に日々支援に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 30 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームシリウス姫神

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールや事務室に掲示し意識付けを行っている。 日々のケアを提供する中で困難事例に向き合った時に、ケアを考える拠り所としている。	理念等はケアを考える拠り所になっている。 特に困難事例に遭遇した際には、職員が共有するホームのキャッチフレーズ「笑顔でそっと見守る穏やかな日々」を復唱し振り返りながら、利用者の思いを大切に声掛けを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園児、踊り、民謡、傾聴、美容等ボランティアの方と良い繋がりができています。また、地域の行事への参加により地域の方々と交流ができています。	地域の情報は町内会報や運営推進委員から得ることが多い。敬老会、文化ホールでのコンサートや民謡、踊りへのご招待を頂き、楽しみながら住民との交流が来ている。保育園児との手遊び、傾聴・美容ボランティアの定期的来訪は、利用者の笑顔と活力に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の認知症ケアを運営推進会議や地域のケア会議を通して地域の方々に理解していただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に現状を伝えることで課題等の解決に繋がっています。地域のさまざまな情報交換も出ています。	地域代表2名、行政職員、家族代表を委員に依頼し、毎回5、6名で開催している。避難訓練や住民との交流、利用者の処遇等、時々様子を伝え夫々の立場から応援を頂いている。夜間職員一人体制下での災害対応は困難を伴うことから、消防団、隣人の協力が必要との助言に沿って、避難訓練では早速協力を得て実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の申請、更新時はもとより、地域の会議や勉強会では各種情報をいただきサービスの充実に繋がっています。事業所の実情は運営推進会議録で報告しています。	市担当課とは電話や出向いて助言を頂いたり、地域ケア会議や運営推進会議で情報を共有している。医療・保健・関連する社会資源とは、連携も含め話しやすい関係にあり、利用者の処遇や関係事務処理等、随時助言や指導を得ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修への参加により、身体拘束に関する理解を深め見守りや適切な介助で身体拘束をしないケアを行っています。	身体拘束に関する対応マニュアルを教材に職員研修を定期的に行い、再確認しながら拘束のない支援に努めている。ふらつき転倒不安のある利用者のベッドやドア付近に鈴をつけ、転倒を未然に防ぐ工夫をし、また夕暮れ時に帰宅願望のある利用者とは一緒に散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、マニュアルにて学習し虐待が起きないように職員間で注意している。研修に参加して職員の意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時活用できるよう、研修している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約は、重要事項説明書にて理解納得を得られるよう十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いを汲み取り、家族からは電話や面会時での確認、定期報告(毎月)写真やお便り、みんなの声の箱を設置しています。運営推進会議で報告し、意見をいただき運営に役立てている。	姫神だよりや利用者の暮らしぶりを伝える写真入り定期報告を家族に送り、来訪時や電話で話題に感想や意見を聴いている。出された意見、要望は職員会議や運営推進会議で話し合い、職員間で共有し運営に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の変化を全体的に把握し、職員とコミュニケーションをとりながら意見を聞き取り職員会議で検討を行い運営に役立てている。	職員からの提案で全職員参加の会議を毎月1回18時から開催している。記録の書き方やケアの方法、物品管理等々、何でも話合える雰囲気があり、今年度は職員各自の自己評価表を記入し振り返り会議で共有している。必要に応じ代表者に進言して運営に反映させ、職員の処遇改善に繋がっているものもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日々の勤務状況を理解、把握し各自の能力が発揮しやすいように環境整備に努め、代表者に報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加ができるためのシフト調整や資格取得のための情報の提供と支援を行っている。職員が自ら学ぼうとする意欲を大切にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に入会し、定例会の研修や見学会、相談、交換研修、避難訓練などお互いに参加協力している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いに寄り添いながら、納得するまでお話を聞くことにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族の思いを受け入れて、事業所で行えることを説明しホームの運営方針を理解、納得していただくことで安心されます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHの特質を説明し、介護計画により支援を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守り見守られながら共に広い範囲の会話を心がけて、できる生活の場面を大切にしながら一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診介助や外食に連れて行ってくれたり、面会に来てくれます。自宅への思いが強い方には、一時帰宅で近所のなじみの方とおしゃべりをさせてくれます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友達、親戚、隣人の方が面会に来られた時は、ゆっくり過ごせる場を作り、写真撮影をして思い出作りをしています。家族との外出、外泊も大切にしています。、	これまで関わってきた友人、隣人、仕事仲間の方々の来訪を大切にしている。墓参り、自宅周辺へのドライブ、買い物と家族と一緒に出かけ方もいる。定期的にホームに訪れる美容ボランティアとの新たな馴染みも出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士の見守りや話しかけ、活動への誘いなどそっと見守っています。コミュニケーションが自力では難しい方には間にはいり関わりを支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても居宅や、地域包括、相談員さんを通して繋がりがりあり、相談があった場合には相談支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用始めに確認しますが、状態の変化を見逃さずケース記録を参考にしながら職員や家族と話し合い、その方らしい暮らしができるように支援しています。	入浴時や夜間にポロっと話した本音や日々の様子をケース記録に残し職員で共有している。魚を口にしなくなった利用者を思いやった際に、親族を亡くしたことに気づき、35日間別メニューとし、併せて墓参りをしたい思いを叶えられるよう家族に伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時、CM、本人、家族、面会時など身内の方から聞き取りで確認しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や日々のケアにおいて日内変動の状態や、有する力を発見している。職員間の情報も含め現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録やモニタリングを参考にしながら家族、本人の思いに沿った介護計画を作成し、日々の変化は評価票で確認。3ヶ月で計画の見直しをしながら現状に即した計画となっている。	プランは担当者の意見や毎日の記録、家族面会の話題を参考にしながらホーム長が素案を作り、職員や家族の意見を聴いて作成している。援助内容に編み物や歌、ぬり絵、外出・散歩なども記入している。機能の低下の予防や趣味・特技も取り入れ3ヵ月毎に見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送り帳に個別の記録を行い、出勤時個々の記録を確認、過以後計画や見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設でできる範囲の行政との手続きを行ったり、各機関より情報収集しその情報の提供等、ニーズ解決に臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議から広がった社会資源を活用しながら若い方(保育園)～(高齢の方)シルバー人材センターまではば広く交流ができていて生活が楽しめている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に家族と協力しながら定期的な受診介助を行っている。急変時、夜間、休日対応もあり安心に繋がっている。	かかりつけ医の受診は家族同行としているが、多くの利用者が通う医療機関は地域内にあることから、情報共有のため職員も同行している。協力医はホームの隣にあり利用者、家族、職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員配置なし		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人、家族の承諾の基、ホームでの暮らし等情報の提供や本人、家族の意向を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については入所時に説明し家族も納得されている。状態に応じて病院や他施設への転所への支援を地域包括の協力や運営推進会議によって支援している。	入居契約時にホームで出来る支援について説明し同意を得ている。利用者の状態変化を家族に伝えながら、かかりつけ医や地域包括センター等の関係機関と相談し、病院や他施設への住み替えの支援を丁寧に行っている。緊急時の対応を研修し会議で再確認しながら容態の急変時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時の対応、応急措置の確認を行い、心肺蘇生法を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回災害、火災時の避難訓練を行っている。運営推進会議で地域の協力について確認している。	運営推進会議の助言を得て訓練を重ねている。夜間の緊急時に一人で9名の避難誘導は困難と再確認している。近距離在住の職員は勿論、消防団員や隣家の方々の協力、防災無線の活用、避難先等、マニュアルを見直しのうえ、近隣住民の参加協力を得て訓練を行っている。日中の夜間想定訓練に留まらず、今後は薄暮時に夜間避難訓練を行う予定としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であってもプライドは残っており、尊厳を大切にケアをしている。プライバシーに配慮しながら一人ひとりにあった言葉かけや対応をしている。	プライド、羞恥心に配慮している。「大声を出さない。きちんとその方にあった説明をする。やさしく・あたたかく・丁寧に」と、事務室に掲示されている。職員は、一つ一つの事例を通して再確認し合いながら、利用者を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係や話しやすい環境を大切にしている。思い込みや先取りをせず本人の求めているものをきちんと聞きとる。自己決定が難しい方には選択肢をいくつか挙げたり、表情で感じ取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態によって利用者のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と美容院へ行ったり訪問美容で希望の髪型ができるようにしています。入浴時の着替えの準備を本人が行い洋服を選ぶことができるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理を行うことは難しくなっていて、カップぐらの片づけは行っています。食べたい物の聞き取りにより献立作成に参加でき食事の楽しみにつなげています。	利用者の好き嫌いを聴きながら職員が交代で調理している。彩の良い献立、丁寧な調理、季節の食材を取り入れた喉越しの良いオクラ入り汁などを完食している。食後はゆったりとテレビ観賞し、出来る利用者はあと片付けをしている。四季折々に行事食も取り入れて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて提供しています。病気の悪化防止や体調改善ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回食後、職員の見守り乃至介助によって行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンの把握により、トイレ誘導を行いトイレでの排泄ができるように支援しています。	日中は全員がトイレで排泄出来るように声がけ、誘導、見守り支援をしている。布パンツ・パット、リハビリパンツ等のケア用品を工夫しながら使い分け、安心感に加え経済面にも配慮している。夜間のポータブルトイレ利用は2名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、下剤の使用や朝食時の冷たい牛乳の提供、食事内容、水分補給の工夫、運動等によって予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体状況に合わせて入浴方法を工夫している。一番風呂に入りたい等希望に沿って対応している。	浴室の壁面は淡い暖色、浴槽は個浴と優しさに包まれる雰囲気がある。体調や気分に応じシャワー浴、清拭、足浴を組み合わせながら、週3回程度入浴している。現在入浴を拒否する方はなく、歌が出たり、極楽極楽などど呟っている方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は状態に合わせて、自由に居室で休んでもらっている。夜間は自然な睡眠がとれる方は少なく日中の過ごし方や、生活リズムを整える等支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の情報を職員間で共有し、服用による状態の変化に注意しています。声出し確認により誤薬防止をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午後の活動の時間に、一人ひとりにあった興味のあること、できること、職員の手伝い（役割）等一緒に行いながら気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望や季節の行事、地域の社会資源を活用し外出外泊できる方は自由に出かけています。	利便性の高い環境にあり、量販店やコンビニでの買い物、記念館や公園散策、玄関先での日光浴など、その日の希望で外出できるよう支援している。時には産直でソフトクリームを楽しんだり、レストランで食事をすることもある。家族と外食、外泊を楽しんでいる利用者もいるが、職員はもっと外出頻度を増やせればとの思いを持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しくなっている事と、被害妄想によりトラブルが発生するので家族と相談しお金の所持はないが、外出時買い物等で使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい利用者には、事務所の電話でできている。申し出がなくても職員が家族さんの声を聞きますかと問うと嬉しそうに話されている。活動で家族への手紙を書いたが両者共に好評だった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は常に生理整頓し衛生的かつ安全に考慮し、この家に守られていると思い安心感があります。	全館床暖房設備で食堂、厨房、畳の間でワンフロアになっている。清潔感溢れる落ち着いた雰囲気の中で、職員に見守られながら利用者は夫々に窓際の談話空間でおしゃべりしたり、ソファでんびりとテレビ観賞をしている。壁面には利用者との共同作品や行事の写真が飾られ、思い出話に花が咲くこともあるとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に談話室を設け、そこで器のあった入居者がおしゃべりや外の景色を見たりしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの物を持ってきていただき、落ち着いて過ごせるようにしています。徐々に活動の時に作った力作を飾り思い思いに居心地の良い空間づくりをしています。	空調管理が行き届いた居室にチェストが備えつけられている。テレビ、ソファーなどを持込み、静かに編み物をする人、のんびり空想や昼寝をしている人、家族と携帯電話で話す人など、好みの絵や親族の写真に囲まれながら居心地よく過ごせるような居室に設えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所の表示、居室のベッドやチェストの配置の工夫により安全に注意しています。		